

# 第1章 地域から世界にひろがる 北九州市民環境力の強化

## 第1節 市民・事業者・行政の参加と協働

近年、環境問題に対する知識や関心は高まっていますが、地球温暖化などの地球規模での環境問題は依然進展しています。私たちは、地球規模の問題であっても、解決の出発点は「個人の生活」であることを認識し、一人ひとりがライフスタイルや事業活動のあり方を見直し、内発的・自立的に、より良い環境・より良い地域づくりを進めていく必要があります。そのために、地域の特色を活かして、市民・事業者・行政等の地域のあらゆる主体が力をあわせて環境活動に取り組むとともに、その活動の輪を広げていきます。

### 1. パートナリシップによる環境保全活動

#### (1) 北九州エコライフステージ

##### ア. 事業の目的

北九州エコライフステージは、「世界の環境首都」を目指し、毎年市民団体や事業者などで構成する実行委員会を中心に、エコライフの浸透を目指し様々な環境活動に取り組むものです。

平成18年度からエコライフステージを通年事業と位置づけ、「ゴミを減らそう!! 温暖化から地球を守ろう!!」をテーマに、43万人の市民が参画し96行事を実施しました。その主な事業は以下のとおりです。

##### ア) エコスタイルタウン

開催日：平成18年10月14日(土)・15日(日)  
会場：北九州市役所横広場  
内容：環境活動に取り組む団体による有機野菜や食のコーナー、環境商品の展示・販売、リサイクル工作教室など、日常生活に密着した環境にやさしいライフスタイルを提案する出展を行い、来場者に体験してもらいました。また、マスメディアの参画による音楽やトークショーなどのステージイベントを通して、楽しいエコライフを提案しました。さらに、飲食出展者によるバイオマスプラスチックやリターナブ



エコスタイルタウンのステージショーの様子

ル食器の利用、来場者への環境パスポート(カンパス)によるポイント付与の実施など、来場者と出展者が共に環境意識を高める工夫を凝らしました。来場者は、2日間で過去最高の12万人を記録しました。

##### イ) ワーキンググループ(民間団体への助成)

通年事業

内容：身近な環境活動を行う8民間団体に助成を行い、エコスタイルタウンで発表することで、市民に身近なエコスタイルを提案することができました。

##### イ) 地域・テーマ別行事

通年事業(強化期間：10月及び11月)

会場：市内一円

内容：市民団体、企業、学校等の様々な環境活動を行っている団体を紹介することで、市民団体・企業間の相互交流による環境活動の拡大、ネットワークの広がりが生まれました。

##### イ. 成果

エコライフステージでは、参加者が年々増加しており、市民に環境の環が広がっています。

エコスタイルタウンでは、58団体、120,000人の市民が参加し市民団体・企業・学校等との様々な交流が行われました。平成18年度は国や県の関係機関から初めて出展があり、環境活動の環が市外にも広がりをみせ始めています。

また、海外9カ国の新聞記者がエコスタイルタウンを訪れたことにより、北九州市民の環境意識の高さを国外に情報発信することができました。

##### ウ. 課題

###### ア) 推進体制の充実

新たな環境活動を発掘するため実行委員会のあり方を検討し、再構築を含めた推進体制の充実を検討します。

##### イ) 環境情報の交流促進

環境活動の交流を促進するツールとして、インターネットを活用した情報共有・交流のポータルサイト「北九州エコライフネット」をさらに使いやすくするための改善や適切な運営管理を検討します。

##### イ) 環境活動の情報収集

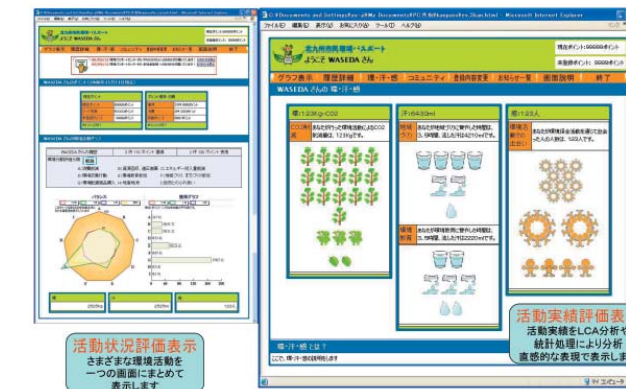
エコライフステージが通年事業となったことから、よりいっそう効果的な環境活動の情報収集を行います。

#### (2) 北九州市民環境パスポート(カンパス)事業

##### ア. 事業の目的

環境パスポート(略称：カンパス)事業は、市民が楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供するための、ポイントプログラムです。環境に配慮した活動をした人が活動内容に応じたポイントを取得し、そのポイントの特典と交換出来る「頑張れば頑張っただけ得をする」仕組みです。

また、行った環境行動について、グリーン通知表という目に見える指標で確認することができ、日常的な環境行動がどのように貢献しているかを感じることで、環境行動を起しやすくなるという特長があります。



グリーン通知表

##### イ. これまでの経緯

###### ア) 実証実験の実施(平成16年度)

平成16年に国の地域再生計画の認定を受け、総務省の地域通貨モデル事業として八幡東区東田地区を中心に2ヶ月間(H16.12~H17.1)の実証実験を実施しました。

###### イ) 実証実験の結果検証(平成17年度)

実証実験で得られた結果をさらに検証するとともに、全市普及を可能とするシステムの構築をはじめとする事業展開のあり方について、調査・検討を行いました。

##### イ) 事業の実施(平成18年度)

この検討結果を受けて、平成18年10月、エコライフステージの期間中、ICカードを用いて、参加者1,000人を対象に事業を実施しましたが、事業の拡大を確かなものにするため、より簡易で安価なバーコード方式にシステム改良しました。

平成18年12月からポイントの電子化が難しいマイバック運動を補完するためポイントをシールで配布するカンパスシール事業を開始しました。(P8~9参照)

##### ウ. 今後の展開(平成19年度)

当初、実証実験を行った八幡東区を中心に実施する予定でしたが、バーコードシステムを採用したことで、区域にこだわらず広く事業を行うことが可能となりました。

平成19年度の取組としては、新日鉄エンジニアリングと本市が協力して実施する「食品廃棄物エタノール化実証事業」において、バイオエタノールの原料となる生ごみを、家庭で分別して市内3ヶ所の回収拠点へ持ってきていただいた場合、カンパスポイントを付与します。

一方、カンパスシール事業については参加店舗・業種の拡大を図るとともに、シール配布対象をレジ袋削減だけでなく、「環境イベントの参加」や「資源回収」などに拡大し、カードシステムを補完する機能を充実させていく予定です。



カンパスカード・シール・台紙



(3) 八幡東田地区グリーンビレッジ構想

ア. 背景

平成 13 年 (2001 年) に「ジャパンエキスポ北九州博覧祭」が開催され、21 世紀における環境への取組みのあり方について、様々な提示が行われました。その成果を活かし、本市が目指す「世界の環境首都」のモデルとなる環境配慮のまちづくりを進めるため、産学官民の協働で「八幡東田グリーンビレッジ構想」を取りまとめました。

一方、国においては、「全国都市再生のための緊急措置」において、「環境共生のまちづくり」を進めるためのモデルとなる提案を募集し、平成 15 年 6 月、本市が提案した「八幡東田グリーンビレッジ構想」が選定されました。この選定を機に、構想内容の具体化に向けた検討を行う「八幡東田グリーンビレッジ構想推進地域協議会」を設立し、平成 16 年 3 月に実施計画を策定しました。

イ. 八幡東田グリーンビレッジ構想実施計画

実施計画においては、①共有価値の創造、②循環型エリア・マネジメント・システムの構築、③街並み形成、④快適な暮らしの創出、⑤協働を促進する拠点づくり、⑥取組みの発信の 6 つの取組を基本に据え、24 の推進プログラムを定めています。

共有価値の創造	1 北九州市民環境パスポート事業
	2 サイクル特区の構築
	3 カーシェアリングシステムの構築
	4 バス・トラック等大型交通 (物流) の効率活用
	5 エコ・ドライブ支援プログラム
	6 アロハ・プロジェクト
	7 ローカルルールづくり
循環型エリアマネジメントシステムの構築	8 都市エネルギー管理システムの構築
	9 廃棄物マネジメント・システムの構築
	10 再生可能燃料 (バイオエタノール混合ガソリン) の利用促進
	11 サステナブル計画の策定
街並み形成	12 街並み形成軸と歩行者ネットワークの構築
	13 東田グリーンビレッジ植林事業
快適な暮らしの創出	14 (仮称) 北九州オープン・エア・ミュージアム計画
	15 微気候形成プロジェクト
	16 環境共生型住宅整備計画の策定
	17 シビック・コンビニエンス・センターの設立
協働を促進する拠点づくり	18 安全・安心のネットワークづくり
	19 「地球温暖化対策地域協議会」の立ち上げ
	20 東田エコクラブを拠点としたパートナーシッププログラム
	21 交流の場と環境教育の場の提供
取組の発信	22 サステナビリティレポートの市民評価システムの導入
	23 東田サステナビリティレポートの整備
	24 まちづくりPR

実施計画推進プログラム

ウ. これまでの取組と成果

(ア) 環境配慮のまちづくりを支える基盤整備

- 東田エコクラブハウスの建設

(H16.3 整備)

パッシブソーラー (太陽光や風などの自然エネルギーを利用した工法) 等を活用した



環境配慮型の建築物であり、環境保全活動を行う NPO 法人等の活動拠点等として活用しています。

- カーシェアリング事業 [H17.1 事業開始]

構造改革特区 (市民力が創る「環境首都」北九州特区) 認定の下、低公害車を複数の事業者が共同利用することにより、環境への負荷低減に資するカーシェアリングを実施しています。



- 天然ガスコジェネ発電電力の地域内利用 [H17.2 事業開始]

構造改革特区 (北九州市国際物流特区) 認定の下、電力供給者と東田地区内に立地する企業等が資本関係等によらない、密接な関係を構築し、環境負荷の小さい天然ガスコジェネ発電電力の地域内利用を進めています。



- 環境共生住宅の建設 [H18.12 着工]

天然ガスコジェネ発電電力を利用し、200KW 級の太陽光発電設備、高効率給湯器等の省エネ型の設備等を備え、カーシェアリングも装備することにより CO<sub>2</sub> の排出量約 30% 削減を実現した環境共生住宅が着工しました。この事業は、環境省「街区まるごと CO<sub>2</sub>20% 削減事業」に採択されています。



※コジェネ (コージェネレーション) とは、熱と電気を同時に供給することができる熱電併給のことで、ガスエンジン、ガスタービン、ディーゼルエンジンなどの原動機を使って発電を行いながら、同時に発生する排熱を給湯、暖房、冷房などに利用するシステムです。

(イ) 住民参加によるまちづくり

- 市民による花壇づくり活動
- 住民が花壇づくり活動を行い、うるおいのある地域環

境づくりに取り組んでいます。

- エコドライブ実践教室
- 市民や企業の安全運転管理者等を対象に、エコドライブの実践教習などを実施しています。

- 「八幡東田まちづくり連絡会」の活動

八幡東田地区に立地する企業等で構成する団体で、地域内の清掃活動や花植え活動など、八幡東田地区において環境保全活動に取り組んでいます。また、この連絡会は「八幡東田温暖化対策地域協議会」としての一面も有し、エコドライブの実践や事業所版環境家計簿の採用など、地球温暖化対策にも取り組んでいます。



エ. 今後の取組

これまでに、環境配慮のまちづくりを進めていくための基盤整備は概ね完了したところです。今後は、現在、建設中の環境共生住宅に入居する住民をも含め、地域内緑化活動など、地域住民や企業が主役となった環境配慮のまちづくりのためのしくみづくりを推進していきます。

(4) わがまちの環境自慢

「わがまちの環境自慢」は、「世界の環境首都」の実現に向け、残したい自然・風景や環境活動を頑張る人などを発掘・認定し、PRしていくもので、市民提案に基づいて平成 17 年度から実施しています。

平成 18 年度は、市民から 852 件という多くの応募をいただき、196 件を認定し、認定証を贈呈しました。認定数は、平成 17 年度分と合わせ、469 件となりました。

また、平成 18 年度は、小学生や中学生から多くの応募 (132 件) がありました。特に、全校児童が藍島を歩き環境のすばらしさを発見した藍島小学校 (小倉北区) や 4 学年全員が近くの栄盛川を観察した深町小学校 (若松区) に、特別認定として認定証を渡しました。

認定された市民から「認定を受けて励みになる、これから頑張りたい」「今まで北九州市にこんなすばらしいところがあることを知らなかった」などの声があり、市民の環境活動の環が広がっています。

認定された環境自慢は、ホームページなどで市内及び全国に情報発信し、北九州市の環境首都づくりに活用させていただきます。さらに、エコツアーなどビクターズインダストリーへも活用していきます。

テーマ: まちの誇れる環境の「だから」と「ちから」!

- 募集内容: ①市民としての取組  
②建物や空間など都市環境  
③産業や経済活動での環境

◆わがまちの環境自慢の例



団体部門: 「高齢者の清掃ボランティア」



自然部門: 若松区「遠見ヶ鼻」



わがまち環境自慢シンボルマーク



わがまち環境自慢認定証



**(5) まち美化に関する啓発**

ごみのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民・NPO、企業等と連携し、様々な啓発事業を実施しています。様々な取り組みにより、「自分たちのまちは自分たちの手できれいにする」という市民の美化意識は高まっています。

今後も、誰もがまち美化活動へ気軽に参加し、環境美化について関心を抱くよう、PR・啓発活動を充実させ、市民全体のモラル・マナーの向上を目指します。

**ア. “クリーン北九州” まち美化キャンペーン**

5月30日を「ごみゼロの日」として、この日の前後に清掃活動を行う運動は、昭和50年代に全国的に広まりました。

北九州市では、昭和58年に「ごみゼロの日キャンペーン」を開始し、平成3年からは5月30日～6月30日を「クリーン北九州” まち美化キャンペーン」として、市民・企業・行政が一体となってまち美化活動や啓発活動を行っています。



**(ア) まち美化清掃**

観光地や駅周辺など市内8ヶ所に会場を設け、市民、企業、行政が協力・連携し、大規模なまち美化清掃を実施しました。

また、期間中、市内各地で地域団体やボランティア団体、企業等による清掃活動が行われました。

**(イ) ポイ捨て防止の呼びかけ**

主要駅前での街頭啓発のほか、学校、企業、地域団体等の協力を得て、空き缶や煙草の吸い殻等のポイ捨て防止の啓発チラシ・ポスターを市内全域に配布しました。

また、モノレール全駅での啓発放送やごみ収集車や環

◆まち美化清掃  
(参加人数・収集量の推移)

年 度	参加人数 (人)	収集量 (t)
平成14年	20,301	50.6
平成15年	19,701	59.7
平成16年	19,139	48.7
平成17年	23,012	46.7
平成18年	28,125	65.1

境パトロール車の放送により、市民に幅広くまち美化意識の向上を呼びかけました。

**イ. 「市民いっせいまち美化の日」**

平成6年10月1日に「北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例」(まち美化条例)が施行されたことから、平成7年から毎年、10月1日～7日までを「清潔なまちづくり週間」と定め、さらに、平成8年からは期間中の日曜日(10月の第一日曜日)を「市民いっせいまち美化の日」とし、市民総出で地域の道路、公園、河川、海浜等を清掃しています。こうした市民参加型の行事を継続実施していくことで、まち美化意識の高揚と定着を図っています。

また、平成16年10月3日(日)の「市民いっせいまち美化の日」には「まち美化でギネスに挑戦」を同時に開催し、一日に集まったごみ拾いボランティアの人数の世界記録(参加者数74,206人)を達成しました。

◆市民いっせいまち美化の日  
(参加人数・収集量の推移)

年 度	参加人数 (人)	収集量 (t)
平成14年	63,670	173.6
平成15年	70,946	195.1
平成16年	87,009	275.4
平成17年	87,670	175.6
平成18年	88,694	217.4



**ウ. “クリーン北九州” 百万市民運動推進協議会**

まち美化活動が市民一人ひとりの生活習慣として定着し、北九州のイメージアップを図ることを目的として、平成元年に発足しました。

地域・学校・企業・ボランティアを代表する39団体で構成され、「5分間清掃」「ポイ捨て防止」「ごみの持ち帰り」の3つを運動目標に普及啓発活動を実施しています。

**エ. まち美化推進員**

平成6年10月に施行された「北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例」(まち美化条例)に基づき、「まち美化推進員」を選任しています。

まち美化推進員は、市と市民のパイプ役を果たし、地

域のまち美化活動を牽引する役割を担います。(平成19年3月31日現在163名)

**オ. まち美化促進区域**

多くの市民の集まる駅前や観光地など、市のイメージアップ等の観点から特にまち美化が必要な区域を「まち美化推進区域」として指定しています。(11ヶ所)

区	まち美化推進区域
門 司 区	・門司港レトロ地区 ・大里柳校区駅前周辺地区
小倉北区	・小倉駅前地区 ・勝山公園地区
小倉南区	・朽網であい坂地区
若 松 区	・若松南海岸エルナード地区
八幡東区	・国際通り地区 ・帆柱自然公園
八幡西区	・黒崎地区 ・沖田地区
戸 畑 区	・戸畑駅前地区

**カ. ポイ捨て実態調査**

路上の散乱ごみの実態を把握するため、JR小倉駅周辺と黒崎駅周辺で調査を行いました。

調査時期	平成18年11月	平成19年3月
ごみの種類	個数(割合)	個数(割合)
たばこの吸殻	10,017個(80.5%)	14,414個(79.5%)
紙 類	949個(7.6%)	1,382個(7.6%)
ビニール袋類	779個(6.3%)	1,303個(7.2%)
飲料容器類	703個(5.6%)	1,035個(5.7%)
合 計	12,448個	18,134個

**キ. まち美化ボランティア袋**

道路・公園・河川等の公共の場所をボランティアで清掃する市民に「まち美化ボランティア袋」を配布し、活動の支援を行っています。



**ク. 生活環境クリーンサポート事業**

地域団体やボランティア団体による自主的なまち美化活動に対し、環境センター職員の参加(市民との協働作業)や清掃用具貸出などの支援を行っています。

まち美化を通じて地域と行政の新たなネットワークを形成し、地域におけるまち活動の拡大を図り、清潔で美しいまちづくりを進めます。

**ケ. 北九州市環境衛生大会**

環境・保健衛生活動に携わっている地域の関係者が集まり、お互いの連携を深め、今後の更なる事業推進・発展を期して開催される大会で、社団法人北九州市衛生総連合会と共に実施しています。永年にわたり環境衛生活動に貢献された方の表彰式も行われています。

**(6) ごみの減量化・資源化に関する啓発**

循環型社会の形成を図るには、一層のごみの減量化、資源化を推進していく必要があります。そこで、市民一人ひとりの減量・リサイクル意識の向上を図るため、各種の啓発事業を行っています。

**ア. エコライフプラザ**

資源循環型ライフスタイルの啓発、グリーンコンシューマーの育成拠点として、平成14年11月にエコライフプラザをアジア太平洋インポートマート2階に開設しました。NPO法人に企画・運営を委託し、エコ商品の展示、販売、リユース品の販売、エコライフに関する情報の提供、毎日の生活に役立つ環境講座などを実施しています。(運営についての詳細は42ページ)



**イ. 施設見学**

一般市民や小・中学生にごみ処理について正しく理解してもらうため、新門司工場、日明工場、皇后崎工場、日明・本城かんびん資源化センターの見学会を実施しています。

■平成18年度 施設見学者数 15,380人



ウ. 大都市減量化・資源化共同キャンペーン

平成4年度から、政令指定都市と東京23区が連携して、ごみの減量化・資源化に対する市民や事業者の意識啓発を図ることを目的とした共同キャンペーンを実施しています。

平成18年度は、古紙配合率100%のオリジナルポスターと、ペットボトル再生糸を使用したマイバッグを製作し、公共施設や店舗等への掲出、及びイベント等での配布を行いました。

エ. 「分別大事典」の配布

「資源」と「ごみ」の分け方・出し方を知ってもらうため、一目でごみの分類や出し方が分かる目次兼分別一覧表や、出し方に迷うものが簡単に調べられる50音順の分別早見表等を掲載した冊子を、区役所や市民センター等で配布しています。



(英語・中国語・ハングル表記のものも作成しています。)

オ. 「かえるプレス」の作成・配布

リサイクルに関する情報の提供や、環境局の取組を紹介するために情報誌を発行し、各戸に配布しています。

■発行回数/年2回



カ. 空き缶プレスカー「カンガルー号」の運行

リサイクルに対する関心を高めてもらうために、小学校等に空き缶プレスカー「カンガルー号」を派遣し、プレス実演を行うとともに、回収した缶を資源化しています。

■運行回数/68回(平成18年度)



2. 市民・事業者による取組の支援

(1) 環境活動に関する各種表彰

環境問題を解決していくためには、市民一人ひとりが環境との関わりについて理解し、具体的な行動を起こしていくことが必要です。そして地域の環境活動に積極的に取り組んでいる市民・NPO、事業者等のやる気を支え、長期的な取組に効果的なインセンティブを付与するために、市民・NPO、事業者等が取り組んだ環境活動に対して、各種の表彰を行っています。

ア. これまでの表彰について

全国規模の表彰	<p>○第4回北九州市環境賞</p> <p>国内外を問わず、環境分野において卓越したリーダーシップを発揮しており、かつ環境分野で強い影響力を有する団体、個人を表彰。 平成18年度：大賞1名(グロ・ハルレム・ブルントラント氏) 特別功労賞(花嶋正孝氏) 奨励賞 3名(NPO環境みらい塾、(財)タカミヤ・マリバー環境保護財団、(財)トトロのふるさと財団)</p>
	<p>○環境衛生優良地区(市長表彰状)</p> <p>5年以上にわたり、ねずみや衛生害虫の防除、まち美化清掃等の生活環境の改善を積極的に推進している地区を表彰。 平成18年度：5地区</p> <p>○環境衛生地区組織育成成功者(市長感謝状)</p> <p>5年以上にわたり、環境衛生向上のため実践活動を献身的に指導している個人を表彰。 平成18年度：10名</p>
まち美化	<p>○北九州市まち美化協力功労者(市長感謝状)</p> <p>5年以上にわたり、地域におけるまち美化意識の高揚や清掃活動など、環境事業に積極的に協力し、美しいまちづくりに顕著な成果を上げている個人・団体を表彰。 平成18年度：個人10名、10団体</p> <p>○「校区まち美化レポート」表彰(市長感謝状)</p> <p>小・中・養護学校におけるまち美化活動について広く活動例を募り、顕著な取組を行っている学校を表彰。 平成18年度：22校</p> <p>○北九州市まち美化貢献者(環境局長感謝状)</p> <p>道路、歩道、河川等の清掃や地域の公園、ごみステーションの美観保持など、清潔で美しいまちづくりの推進に貢献した個人・団体を表彰。 平成18年度：個人11名、1団体</p>
	<p>○環境家計簿コンテスト</p> <p>地球温暖化防止を目的として、家庭から排出される二酸化炭素削減に向けた取組の内容が優秀な個人、団体を表彰。 平成18年度：達人賞1名、家族みんなで地球を大切にしたら賞4名他、27名1団体を表彰。</p> <p>○エコドライブコンテスト北九州地区大会表彰</p> <p>大気汚染防止推進月間の事業として、環境省と独立法人環境再生保全機構が主催するものであり、北九州市内から応募のあった事業所について、地区大会として優良事業所を表彰。 平成18年度：市長賞1団体、商工会議所会頭賞1団体、環境局長賞1団体、優良賞8団体</p>
	<p>○北九州市ごみ資源化・減量化優良事業所・団体</p> <p>ごみ資源化・減量化に積極的に取り組んでいる事業所・団体に感謝状を贈呈。</p> <p>○集団資源回収優良団体</p> <p>集団資源回収に取り組んでおり、回収実績等が優秀であった団体を各区ごとに表彰。</p> <p>○産業廃棄物優良処理業者</p> <p>産業廃棄物処理業の許可業者を対象に優良処理業者を選び表彰。</p>

イ. 今後の取組

今後も引き続き表彰制度を継続し、市民や事業者への環境への取組を支援していきます。

なお、ごみの減量やリサイクルの取組について、全市民的な市民運動として盛り上げていくため、既存の表彰を見直し、積極的に取り組んでいる地域、団体、事業者を幅広く表彰する制度を平成19年度に創設することとしています。